

(3) 県負担・補助率の考え方

- 後方支援病床確保に係る経費
10,000 円／床・日（県 10/10）

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
補助金	171,940	後方支援病床確保経費に対する補助金
合計	171,940	

決定額の考え方

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

- ・第7期 岐阜県保医療計画 第3部 第2章 第12節2-1「感染症対策」
- ・岐阜県新型コロナウイルス感染症対策本部「新たな波に備えて」（R3.10.12 決定）

(2) 国・他県の状況

- ・退院基準を満たした患者を受け入れる医療機関へ支援金を支給している都道府県あり。

(3) 後年度の財政負担

新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえ、引き続き支援を行う必要がある。

(4) 事業主体及びその妥当性

自宅療養者ゼロの「岐阜モデル」を堅持するため、県として後方病床の確保に対して支援を行うのは妥当である。

県単独補助金事業評価調書

新規要求事業

継続要求事業

(事業内容)

補助事業名	新型コロナウイルス感染症後方支援病床確保事業費補助金
補助事業者（団体）	新型コロナの退院基準を満たした後も引き続き治療が必要な患者を受け入れる「後方支援病床」を確保する県内医療機関 （理由）新型コロナの入院患者用の病床逼迫を避けるため、医療機関の後方支援病床確保に対する支援を行う必要がある。
補助事業の概要	（目的）新型コロナ後方支援病床の確保 （内容）後方支援病床の確保に係る経費を補助
補助率・補助単価等	定額・定率・その他（例：人件費相当額） （内容）補助率 10/10 （理由） <u>二次救急医療提供体制の確保は市町村が行うものであるため。</u>
補助効果	後方支援空床を確保することで、コロナ患者入院病床の逼迫を回避し、自宅療養ゼロを堅持する。
終期の設定	未設定

(事業目標)

・終期までに何をどのような状態にしたいのか

新型コロナウイルス感染症の収束まで、病床逼迫の回避を図る。

(目標の達成度を示す指標と実績)

指標名	事業開始前 (R)	R2年度 実績	R3年度 目標	R4年度 目標	終期目標 (R)	達成率
						%
①						%
②						%

	H30年度	R元年度	R2年度
補助金交付実績	千円	千円	16,750千円

(これまでの取組内容と成果)

令和2年	後方支援病床の確保によるコロナ病床逼迫の回避 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：____%
令和3年度	令和5年度当初予算にて追加 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：____%
令和4年度	令和6年度当初予算にて追加 指標① 目標：_____ 実績：_____ 達成率：____%

(事業の評価)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業の必要性 (社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3: 増加している 2: 横ばい 1: 減少している 0: ほとんどない 	
(評価) 3	新型コロナ入院患者病床の逼迫を回避し、自宅療養者ゼロを堅持するため必要な事業である。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の有効性 (指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3: 期待以上の成果あり (単年度目標 100%達成かつ他に特筆できる要素あり) 2: 期待どおりの成果あり (単年度目標 100%達成) 1: 期待どおりの成果が得られていない (単年度目標 50~100%) 0: ほとんど成果が得られていない (単年度目標 50%未満) 	
(評価) 2	後方支援病床の確保により、コロナ病床における入院患者の循環が促進される。
<ul style="list-style-type: none"> ・事業の効率性 (事業の実施方法の効率化は図られているか) 2: 上がっている 1: 横ばい 0: 下がっている 	
(評価) —	感染拡大状況を勘案し、必要な病床数の確保を図っていく。

(今後の課題)

<ul style="list-style-type: none"> ・事業が直面する課題や改善が必要な事項

(次年度の方向性)

<ul style="list-style-type: none"> ・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 終期到来時の新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえて検討。
--